

近代日本文献における複合辞「～に関して」について

朴宣映*
ps9324@daum.net

〈目次〉

- | | |
|-----------------------------------|-------------------------|
| 1. はじめに | 3.3 英和辞書における用例 |
| 2. 現代日本語の「～に関して」の用法と用例 | 4. 複合辞「～に関して」の生成と由来について |
| 3. 近代文献における「～に関して」の用例 | 4.1 蘭語・英語の訳語の影響について |
| 3.1 雑誌における用例－「近代語コーパス」
を用いて | 4.2 中国語「關於」の影響について |
| 3.2 書籍などにおける用例－1895年以前
のものを中心に | 5. おわりに |

主題語: 近代日本語(modern Japanese), 複合辞(compound particle), ～に関して(ni kanshite), 近代語コーパス(modern Japanese corpus), 中国語‘关于’ (Chinese guanyu)

I. はじめに

複合辞とは「～からして、～にもかかわらず、～に対して、～つもりだ」などのように、「いくつかの語がひとまとまりになって、その一まとまりが固有の「付属語」(辞)的な意味を担うものとして用いられる形式」¹⁾である。

この複合辞の中では、近代以降著しく発達したものが多くの、近現代日本語の分析的な特徴を表すものとみなされている²⁾。従って近代以降どのような複合辞がどのような過程を経て現在の形態と用法として定着してきたのか、その史的研究は近代から現代にいたる日本語の変化を考察する上で非常に重要なものであると思われる。しかし複合辞に関する先行研究は、主に複合辞の認定と個別表現の意味用法に関する考察に集中しており、史的研究はそれほど多くされていないといえる³⁾。

* ソウルデジタル大学 日本学部 非常勤講師

1) 藤田保幸・山崎誠(2001)『現代語複合辞用例集』国立国語研究所, p.1. 複合辞の研究については松木正恵(1990)をはじめ、一連の「複合辞研究史」論文を参照されたい。

2) 前掲書, p.2

本稿では複合辞のなかで「～に関して」をとりあげ、近代文献におけるその用例を考察していきたい⁴⁾。「～に関して」と類似した意味用法をもつ複合辞の「～について」が17世紀以前からすでに使われているのに対し⁵⁾、「～に関して」は近代以降から見られはじめる。そのため、近代以降発達する、複合辞の史的考察に適した対象であると思われる。まずは現代における「～に関して」の用法と用例を確認してみよう⁶⁾。

2. 現代日本語の「～に関して」の用法と用例

現代日本語の「～に関して」は格助詞「に」とともに動詞「関する」の連用形「関し」、あるいは接続助詞「て」が付いた形で「言語・思考行動の対象・内容や、検討・評価がなされる観点を示す」⁷⁾複合辞である。一部の辞書では「～に関して」を動詞「関する」とは別に「連語」として説明している(下線は筆者による)。

■ 大辞林

かん・する(関する) ある物事にかかわりがある。関係する。かかわる。
教育に一する諸問題。政治に一して発言する。我一せず。
関して(連語) …に関係して。…について。関し。

-
- 3) 安志英(2009)「複合辞に関する史的研究」-がよい(いい)」「-方がよい(いい)」を中心に『立教大学日本文学』103号, pp.159-171, 辻本桜介(2013)「複合辞ニツケテの接続助詞用法について-現代語と中古語を比較して」『日本語学論集』第9号, pp.209-240 などがあげられるが、主に近代以前から使われている表現を考察している。一方、直接複合辞にかかわる研究ではないが、森岡健二(1991)『近代語の成立 文體編』明治書院, pp.323-373では、室町時代から明治末までの文献に見られる一連の複合辞を「準副助詞・準連体助詞的用法」の表現として調査している。それによると、「～に関する」は近代以降から文献に現れるとされる。
- 4) 筆者は近代韓国語の文章に影響した一連の日本語の複合辞を考察するなかで、韓国語「～에 관하여」の生成に関係していると思われる「～に関して」に注目するようになった。朴宣映(2006)『近代韓国語における日本語の影響』東京大学学位論文。
- 5) 17世紀初西洋宣教使による日本語文法書である『ロドリゲス日本大文典』では「～について」を前置詞にあたる表現として説明している。土井忠生(1955)『ロドリゲス日本大文典』三省堂, pp.285-287
- 6) 「～に関して」の連体修飾表現である「～に関する」も「～に関する」の形で近代文献から見られはじめる。筆者の調査では「～に関して」より早く現れるが、複合辞としての用法を確定しがたい例が多く、今回は「～に関して」だけを考察した。「～に関する」については今後の課題として研究していきたい。
- 7) 藤田保幸山崎誠(2001), 前掲書, pp.28-29, pp.106-107. ここでは「～に関して」を「述語にかかる成分を形成する」助詞的複合辞として分類している。

■ 大辞泉

かん・する(関する) 関係がある。かかわる。

将来に～・する問題。映画に～・しては、ちょっとうるさい。我～・せず
関して[連語] 《動詞「かん(関)する」の連用形+接続助詞「て」》
…について。…にかかわって。

以上のように「二つ以上の単語が連結して、一つの単語と似たような働きをもつ」連語として「関して」を説明していることから、動詞とは異なる、複合辞としての機能が認められていることがわかる。「～に関して」の具体的な用例を見てみよう(下線は筆者による)。

- (1) 出口戦略に関し、バーナンキ議長が年内の資産購入圧縮開始の方向性を強く打ち出し
(朝日新聞, 2013.06.20)
- (2) 今、総理、冒頭でTPPに関して、関係国との協議に入ると明言されましたので
(野田内閣総理大臣記者会見, 2011.11.11)
- (3) 憲法改正に関しては「未来志向の憲法を構想する」と表現したが(読売新聞, 2013.06.11)
- (4) 核燃料サイクルや原発の共同開発・輸出に関しても協力することを確認したという
(毎日新聞, 2013.06.23)
- (5) 詳細に関しましては、後頁以降をご覧くださいませ(広告文)

「～に関し・関して」の他、例(3-5)のように「は」と「も」のついた形と丁寧形「関しまして」も使われている。特に「～に関しては・関しても」など助詞のついた形は文の主題を表す用法として多く使われている⁸⁾。

このような複合辞「～に関して」はいつから使われてきたのか。今回の調査によると19世紀末に初期の用例が見られはじめる。以下では近代文献における用例を考察していきたい。

8) 真仁田栄治(2005)は現代における「～に関して」の用例を調査しているが、それによると係助詞のついた形が「～に関する」の次に多く使われている。真仁田栄治(2005)「複合辞「～について」「～に関して」の使用の傾向：述定と裝定との関係を中心に」『同志社大学留学生別科紀要』5, pp.67-68

3. 近代文献における「～に関して」の用例

3.1 雑誌における用例－「近代語コーパス」を用いて

まずは近代雑誌における「～に関して」の用例を調べた。調査資料は日本国立国語研究所で公開している「近代語コーパス」⁹⁾を利用した。これは近代に発行された雑誌の原文をテキスト化したコーパスで、各コーパスに収録された雑誌の目録は次のようにある。

- 明六雑誌コーパス：1874年、1875年の全号の全文
- 近代女性雑誌コーパス：『女学雑誌』(1894・1895年の31冊)
『女学世界』(1909年の6冊)
『婦人俱楽部』(1925年の3冊)
- 太陽コーパス：1895年、1901年、1909年、1917年、1925年の通常号の全文

検索キーワードは当時の表記状況を考慮し「～に関し・関して・関シ・かんし・カンシ」にした。検索の結果、複合辞「～に関して」の用例数は表1のようである。

表1 近代コーパスにおける「～に関して」の年代別用例数

資料年度 用例数	1874- 1875	1894- 1895	1901	1909	1917	1925	計
明六雑誌	0	×	×	×	×	×	0
女性雑誌	×	47	3	×	2	52	
雑誌太陽	×	286	391	354	372	146	1549
計	0	333	391	357	372	148	1601

表を見て分かるように、複合辞「～に関して」の用例は1870年代に刊行された『明六雑誌』には見られず、1894年から多数の用例が確認できる。文献における用例をみてみよう。

9) 日本国語研究所で公開している「近代語コーパス」は専用の検索プログラムの「ひまわり」を用いて用例を検索し、また出典のテキストと連動され確認できる。今後近代日本語の書き言葉の研究に多いに役立つと思われる。http://www.ninjal.ac.jp/corpus_center/cmj/

- (6) 優劣或は其理由などに關しては、今茲に論ず(女学雑誌, 1894:4号)
- (7) ある人露國の戰争に關し公の見る所如何と尋ねしに(太陽, 1895:11号)
- (8) 例へば農業に關しては、彼の地租輕減の如き、假令正當なりとするも(太陽, 1895:1号)
- (9) 而して其起因に關しても亦種々の説ありと雖ども容易に信を置き難し(太陽, 1895:6号)
- (10) 近衛公政社と自己の境遇に關しての演説を爲す(太陽, 1901:3号)

現代と同じく「～に關し・関して」の他、助詞と共に主題を表す例(6),(8),(9)のように多様な形の用例が見られる。また「～に關して」の連体修飾表現は主に「～に關於」が使われるが、この時期、例(10)のように「～に關しての」が見られるということから「～に關して」の複合辞の用法がすでに定着していることがうかがえる。

一方「かかわる、たづさわる」の意味で使われる動詞「～に關して」の用例も多く見られる。

- (11) 或は摸範に拘泥して事實を失ひ或は末節に關して往々不正の裁判を行ふに至れり
(明六雑誌, 1874:19号)
- (12) 此事、國民の惣體に關し、亦た新日本の一體に關す。(女学雑誌, 1895:1号)
- (13) 上は總督府の施政如何に關し、下は藤田組の營業如何に關してをる。(太陽, 1909:16号)
- (14) 多數の來信があり、それが又國家の機務に關してゐることを思ふと(太陽, 1925:10号)

当時の辞書における動詞「關於」の意味を調べると現代の辞書とあまり変わらない。

- くわん・す (自動)(不規・二)[關] カカハル (言海, 1891)
- くわんす 關。かかはる。あづかる。たづさはる。(日本大辞林, 1894)
- くわんす(動・さ變)[關] かかはる、かれとこれとに關係す。(日本新辞林, 1897)
- くわん・す [關](自・サ變) かかはる、かかる、たづさはる (辞林, 1907)

しかし例(11-14)のように「～に關して」が動詞として使われることは、現代日本語ではあまり多くなく、近代以降現代にいたるまで複合辞として定着しつつてきたことがうかがえる。

一方「～について」の表記に漢字の「關」が当てられた例が見られ注目される(例15-16)。用例は多くないが、当時「關」が「～について」の意味でも使われたことがうかがえる。

- (15) 睡眠の時間に關いては、古來種々の説もあるが(太陽, 1895, 12号, 睡眠の節減, 石橋思案)

- (16) 文字の縦横に關きては、醫學上の議論も囂しくて、目は横に二箇附きたれば
(太陽, 1895, 11号, 東と西, 石橋思案)

ここで「～に関して」が定着する過程において類似した用法の「～について」とは、どのように使い分けられていたのか、雑誌太陽のコーパスにおける「～について」の用例も検索し、「～に関して」と年代別に比較してみた(表2)。検索に用いたキーワードは「～に就いて・就き・就て・付いて・付き・付て・ついて・つき・附き」である¹⁰⁾。

- (17) 人間の運勢や世の成行に就ては一寸先が闇と思ふこそ本當の事なれ(太陽, 1895:7号)
(18) 此際資本家と労働者の調和策てふ本題に就て説をなすは(太陽, 1901:13号)
(19) 支那商人の正直なることに付き、フホクスウェル氏は左の論評をなせり。(太陽, 1909:10号)

<表 2> 太陽コーパスにおける「～について」と「～に関して」の用例数

資料年度 用例数	1895年	1901年	1909年	1917年	1925年
～について	994	1030	960	1093	589
～に関して	286	391	354	372	146

「～に関して」と「～について」の用例数を比較すると、全期間をわたって大きな差をみせており、現代のように「～について」の方がより一般的な表現であったことが分かる。

以上「近代語コーパス」を利用し、近代雑誌における用例を調査した結果、複合辞「～に関して」は1894年からは現代とほとんど同じ用法をもって使われていることが分かった。一方、1874年と1875年の資料の「明六雑誌コーパス」にはその用例が見つからず、1870年代後半から1895年までの間に「～に関して」の複合辞用法が生成、定着した可能性が推測される。以下では1895年以前の文献を中心に「～に関して」の用例を考察してみる。

10) 検索結果において次のような動詞と割合・理由を表す「～について・つき」の用例は除いた。
 • 中に就き最後の普通文問題の要旨といはゞ(太陽, 1895:5号)
 • 但し毎契一枚に附き一文錢五枚を徵す(太陽, 1895:6号)
 • 政治と道德及其道德を遵奉するに就き國家と一個人との差異夫れスの如し(太陽, 1895:12号)

3.2 書籍などにおける用例-1895年以前のものを中心

「近代語コーパス」の調査結果を踏まえて、1895年以前に刊行された書籍を中心、「～に関して」の用例を調べてみた。調査した文献は「西洋事情」や「万国公法」など当時大衆的に有名なものと、「官報」と「御署名原本」のように公文書である。具体的な目録は以下のようである。

■ 福沢諭吉の著作¹¹⁾

「増訂華英通語.上」(1860), 「西洋事情」(1866-1869), 「洋兵明鑑」(1869), 「世界国盡」(1869), 「學問のすすめ」(1872-1876), 「童蒙をしへ草」(1872), 「分權論」(1877), 「通貨論」(1878), 「福沢文集」(1878-1879), 「通俗國權論」(1878), 「時事小言」(1881), 「時事大勢論」(1882), 「帝室論」(1882), 「學問の独立」(1883), 「全國徵兵論」(1884), 「日本男子論」(1888), 「尊王論」(1888), 「國會の前途・國會難局の由来・治安小言・地租論」(1892), 「實業論」(1893)

■ その他

「泰西國法論」(1868), 「外交國際公法」(1869), 「英國議事原談」(1869), 「万国公法」(1871), 「性法略」(1871), 「國際法 一名万国公法」(1873), 「百科全書 養生編」(1875) 「官報」1-10号(1883)¹²⁾, 「法令全書」(1885), 「御署名原本」¹³⁾

資料を調査した結果、1860年代までは「～に関して」の複合辞の用例がほとんど見られず、動詞としての用例のみ現れている。

(20) 始の二節は火器に関し終の二節は兵刃に属す(洋兵明鑑, 1869:3:38)

(21) 概して兵の強弱を論ぜば兵員の衆寡に関し三兵の割合宜を得ると否とに関し兵士の将たるものを信ずると否とに関し又一軍兵士の勤怠に関す(洋兵明鑑, 1869:1:96)¹⁴⁾

11) 福沢諭吉の著作の一部は慶應大学の「デジタルで読む福沢諭吉」を利用した。原文のイメージファイルとテキストが連動され、検索と同時に原文の確認ができる。

http://project.lib.keio.ac.jp/dg_kul/fukuzawa_tbl.php

12) 「官報」は国立国会図書館のデジタル資料を用いた。<http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/2964146?tocOpened=1>

13) 御署名原本は明治期に公布された重要法令の原本である。アジア歴史資料センターのデジタル資料を用いた。<http://www.jacar.go.jp/goshomei/>

14) 「～に関し」は原文の「depends on」の翻訳に当てられている。

Generally speaking, the strength of an army depends on its number, the right proportion of the three arms, the confidence of the troops in their leader(Summary of the art of the war, 1862, pp.72)

そのなか、1860年代末から1870年代にかけて、複合辞の用例が数は多くはないが現れはじめている。¹⁵⁾

- (22) 本軍に関して左の一議論あり(洋兵明鑑, 1869, 5:21-22)
- (23) 人間交際の大事に関して或は益を為(なし)し、或は害を為し、その禍福の源たるべきものは
(世界国盡, 1869:1:6)
- (24) 蕁妾淫荒の悪事たるを弁えしむる等の如きは、世の文明に関してその功能の最も大なるものなれば(文明論之概略, 1875:6:25)
- (25) 国事に関して之を喜憂する心の元素に至ては、正しく同一様なりと云わざるを得ず。
(分権論, 1877:13)

続いて1880年代に入ると用例はより頻繁に現れはじめめる。

- (26) 何ぞ区々の利害に関して喜怒哀楽の情を煩わすに足らんや。(時事小言, 1881:21)
- (27) 我日本の政治に関して至大至重のものは帝室の外にあるべからずと雖も(帝室論, 1882:5)
- (28) 該件に関しては大蔵郷の説明もこれ無きに付き(官報, 1883:4:6)
- (29) 帝室の事に関しても単に道理の一方より言を發し(尊王論, 1888:8)

とくに例(28)、(29)のように助詞「は」と「も」を伴う用例も見られ、複合辞の用法が定着していることがうかがえる。一方「～に関して」の動詞の用例は1870年、1880年代にも依然として多く見られている。

- (30) 人民の言路を塞ぎ、その業作を妨るは専ら政府上に関して、遽に之を聞けば唯政治に限りたる病の如くなれども(學問ノスハメ, 1872:13:18)
- (31) 我国四十万の士族は国事に関して國を維持したる者なり。(分権論, 1877:23)
- (32) 終身これを心に関して片時も忘るゝの暇あるべからず。(分権論, 1877:11)
- (33) 七 外部ニ對シテ町村ヲ代表シ町村ノ名義ヲ以テ其訴訟並和解ニ關シ又ハ他廳若クハ人民ト

15) 「～に関して」が「～にしたがって」の意味として解釈できる用例も見られる。

[訳文] 又朝廷ノ禮式ニ關シテ等位ノ同シキヲ云フニ非ス(國際法, 一名万国公法、箕作翻譯、1873:1:4)
[原文] By equality is not meant equality of honor or respect, or equality of rank according to the etiquette of courts(Introduction to the study of international law, Woolsey, pp.36, 1874)

1880年代の英和辞書にも「according to」が「～に関して」に訳されている例がみられており、個別用例にあたり「～に関して」の意味用法を分析する必要であると思われる。

島田豊 他(1888)『和訳英字彙』according, p.a according to 従て、依て、就て, according to law 法に関して

商議スル事(1888, 法律一号, 市村制)

一方、この時期から法令文に「～に関して」用例が使われはじめることが注目される。

- (34) 豫算ニ關シ政府ト帝國議會ノ一院トノ間ニ協議整ハサルトキハ(夏島草案, 85条, 1887)
- (35) 中央衛生会官制 第一条 中央衛生会ハ内務大臣ノ監督ニ属シ各省大臣ノ諮詢ニ応シ公衆衛生
獸畜衛生ニ關シテ意見ヲ述へ及其施行方法ヲ審議ス(勅令第69号, 1887)
- (36) 市ノ事務及市住民ノ権利義務ニ關シ此法律中ニ明文ナク
(法律第1号, 市制, 第一章, 第十條, 1888)
- (37) 第八條 権密院ハ行政及立法ノ事ニ關シ天皇ノ至高ノ顧問タリト雖モ施政ニ干與スルコトナシ
(権密院官制及事務規程, 勅令第22号, 1888)

それまで法令文においては類似した用法の「～について」のみ使われていたが、「～に関して」の用例が公文書に見られるということは、「～に関して」が複合辞として一般に定着していることを意味すると思われる¹⁶⁾。

以上1895年以前に発行された書籍と法令文を調査した結果、複合辞「～に関して」は1869年に初期の用例が見られ、1870年代を経て1880年代からは現代とほとんど同じ用法をもって一般的に定着しているといえる。

3.3 英和辞書における用例

1880年代に「～に関して」が複合辞として定着していることを文献の用例に基づいて考察したが、本稿ではそれを再確認できる手がかりを和英・英和辞書と英語文法書から見出すことができると思われる。

1880年代に発行されている和英・英和辞書と英語文法書において、前置詞「about, as for, concerning, with regard to, relating, respecting」の訳語に「～に関して」が当てられているのである。辞書における用例を見てみよう。

16) 各種の法令は制定以来数回改正されるが、その過程において「～について」が「～に関して」にとて変わる傾向が見られる。法令文における「～について」と「～に関して」の使用頻度の変化は「～に関して」の定着過程を計量化して表すことができると思われるため今後の課題にして行きたい。

■ 斎藤恒太郎(1886)『和訳英文熟語叢』

- concerning this : 此れに就ては、此れに関しては
- As for : 至ては、就ては、拘はりては
- relation, n. in relation to - 就いて、対して、に至ては、論じて…及べば
- regard, n. in regard to, in regard of 就いて、に至ては、論じて…及べば
- respect, n. in respect to, with respect to : 就いて、対して、に至ては、論じて…及べば
- with, prep. with regard to, with respect to : に至ては、就いて、論じて…及べば

■ 島田豊 他(1888)『和訳英字彙』

- About, prep. 周りて、周囲に、四方に、繞りて、就て
- concerning, prep. 就いて、拘りて
- For, prep. 代りに、故ヲ以て、關して、向て、指して、間に、意を以て、為めに、以て。
- As for 就ては、關して、其關係する限に於ては、拘はりて
- in reference to, with reference to 何々に就いては、何々に論及せば
- in regard to, in regard of に就いて、至りては、關して、何々に論及せば
- respecting, prep. 何々關して、何々に論及して、に至りては
- touching, prep. 係りて、就いて

■ 尺振八(1889)『明治英和字典』

- About,(前) 周りて、周囲に、四方に、接して、關して、就て。
To speak about the matter 該件關して説く
- Concerning, (前) 關して、干して、就いて
- For, (前) 代りに、故ヲ以て、關して、向て、指して、間に、意を以て
- For, or as for 關して。其の關係する限に於ては
- in regard to, with regard to, in regard of 就いて、至りて、關して
- Respecting, (現分)(前詞に用ふ)に關係して、に論及して、に至りて

ここで注目されるのは「concerning, respecting」のように動詞の分詞の形に由来する前置詞だけでなく、「about, for, as for, in regard to」などの前置詞の訳語に「～に關して」が当てられているということである。

動詞「concern, respect」が同じく動詞「關する」に訳されるため、その分詞形の「concerning, respecting」も活用形の「關して」に訳された可能性がある。しかし「about, for, as for, in regard to」のように、動詞と関わりのない前置詞の訳にも「～に關して」が当てられてい

る。それに「前置詞」という品詞が辞書に明示されていることから、当時「～に関して」が動詞とは異なる文法的機能をもつ表現であることが認識されていたといえる。

このような複合辞「～に関して」はどのように使われ始めたのか、以下ではその生成と由来について考えてみたい。

4. 複合辞「～に関して」の生成と由来について

4.1 中国語の「關於」の影響について

複合辞「～に関して」に当る現代中国語は、動作が関連する対象や範囲を表す介詞「关于(關於)」である。先行研究ではその用例が清代以降から現れており、西洋語や日本語の影響を受けて使われるようになったとしている。

《對》《對於》《關於》が関連するものを示す用法はきわめて新しいらしく、清代までの用例を検出しない。太田辰夫(1958)『中國語歴史文法』, p.254

還有另一種情況，就是表示關於某一個問題，或對於某一種事物的，也是屬於範圍的表示。在現代漢語裏，對於這種範圍的表示，我們通常在名詞(或名詞仂語)的前面加上新興的介詞“關於”或“對於”，這是受了西洋語法的影響。在漢語原有的語法裏，只用“於”，不用“關於”或“對於”。王力著(1958)『漢語史稿』中冊, p.391

七,下面一些现代汉语词汇, 是在我国人翻译日文时创造出来的。〈訳文:以下の現代中国語の言い方は日本語を中国語に翻訳するときに、中国人によって創出されたものである〉

1) 基于(○○ニ基イテ)2) 关于(○○ニ関スル, ○○ニ就イテ)

3) 对于(○○ニ対シテ)4) 由于(○○ニ由ツテ)

王立達(1958)「現代漢語中從日本借來的詞彙語」『中国語文』, p.94¹⁷⁾

朱京偉(2013)では『近代語コーパス』における「～に関する・関して」と電子版「四庫全書コーパス¹⁸⁾における「關於」の用例を考察している。それによると「關於」の生成に日本語が

17) 朱京偉(2013)「太陽コーパスにおける漢文系複合辞の使われ方」『近代語コーパス報告書』国立国語研究所, pp.221-236から再引用。

影響を与えた可能性は低く、却って日本語の複合辞における中国語の影響を考察する必要があるとしている¹⁹⁾。

本稿では中国語「關於」の影響を考えるうえで、1860年代に発刊された『英華字典』の訳語に注目した。1866年に発行されたW.Lobscheidの『英華字典(English and Chinese Dictionary)』は、近代日本の和英・英和辞書に大きな影響を与えたとされるが、その辞書の中に「concerning」の訳語として「關於」の用例が見られる。

■ W. Lobscheid(1866-1899)『English and Chinese Dictionary』

- Concerning, regarding, 論及, 說及, 講到, 至於, 關於
concerning this, 論及呢的事, 論及此, 至於此

1880年代、日本の英和辞書においてconcerningの訳語に「～に関して」があてられていることから(III.3参照)、「～に関して」の生成に中国語「關於」が影響を与えた可能性が考えられる。またこの辞書を増訂発行した日本の辞書において「concerning」を前置詞として説明する例も見られる。

■ 羅布存徳(ロブシャイト)著、井上哲次郎 増訂(1883-1884)『増訂英華字典』

- concerning, ppr. (commonly, but not correctly classed among prepositions.)
regarding, 論及, 說及, 講到, 至於, 關於; concerning this, 論及呢的事, 論及此一

しかし『英華字典』を和訳した辞書では「關於」を「かんけいして、かかはりて」に訳しており、「～に関して」の用例は見当たらない。

■ 津田仙、柳沢信大、大井鎌吉合訳 中村正直 校正(1879-1881)『英華和訳字典』

- Concerning, regarding, 論及, 說及, 講到, 至於, 關於; かんけいして、かかはりて
concerning this, 論及呢的事, 論及此; これにかかはりて

また1880年代、日本の英和辞書と異なり、Lobscheidの『英華字典』には「concerning」の

18) 『四庫全書』は1781年に完成された百科叢書として2000年に電子版が完成され、18世紀前半までの漢籍語の用例と典拠を検索できる。<http://www.sikuquanshu.com/main.aspx?lang=big5>

19) 朱京偉、前掲書、p.236 この論文では「～に関する・関して」を漢文系複合辞としている。また「～に関する」と「～に関して」を区分せず扱っている。

他、前置詞「about, for, as for, with regard to」などの訳語には「關於」の用例が見られない。

■ W. Lobscheid(1866-1869)『English and Chinese Dictionary』

- About, concerning, 及、就 to speak about 論及 respecting 至於、致於
- As for, 論及、說及、至於
- with reference to, 論及、說及、至及, 至于
- in regard to, with regard to, in regard of 論及, 至於
- in relation to, 論及、說及、至及
- respecting, 論及, 至於, 至于

時代を経て1880年代に出版された英華辞書においても同じく「concerning」を除けば前置詞の訳に「關於」の用例は見当たらない。

■ 鄭其照(1887)『華英字典集成 An English and Chinese dictionary』

- About 論及、至於
- As for 論及
- Concerning 論及、至於、屬、關於
- with reference to, 論及、說及, 至於
- with regard to 論及, 至于
- in relation to, 論及, 至於
- respecting, 論及, 至於

以上、英語辞書における訳語を中心に「～に関して」の生成に中国語「關於」が影響した可能性を考察してみたが、今後さらなる調査と考察が必要であると思われる。

4.2 蘭語・英語の訳語の影響について

1880年代の英和辞書において「～に関して」が「about, as for, concerning」など前置詞の訳語として使われていたが、それ以前の英和辞書ではどう訳されていたのか。本稿では「～に関して」の生成を探るひとつの手がかりとして、1880年代以前の英和辞書と文法書を調べた。調査の結果「～に係りて・拘りて」が訳語として当てられていることが分かった。

■ 堀達之助(1862)『英和対訳袖珍辞書』初版

- concerning prep. ~ニ拘リテ
- regarding prep. ~ニ拘リテ、~ニ就イテ
- touching adv. ~ニ就イテ, ~ニ係リテ

■ 堀達之助・堀越亀之助補(1866)『改正増補英和対訳袖珍辞書』

- for, as for 拘はりて
- regarding prep. に拘はりて、就いて
- respecting prep. に就いて

■ 足立梅景(1866)『英吉利文典字類』

- concerning (前) 係ハリテ
- respecting (前) 拘ワツテ

■ 阿部友之進(1867)『挿訳英吉利文典』

lesson 4. 章 第四

Q. what have you further to say respecting vowel?

何ニヲ汝ハ其ノ他母韻ニ拘ワツテ言フ可ク持ツカ。(初集, p.14)

■ 高橋良昭他(1871)『大正増補和訳英辞林』

- concerning prep. ~ニ拘リテ
- As for 拘リテハ
- Touching prep. ~ニ就イテ、~ニ係リテ

訳語「～に係りて・拘りて」が「～に就いて」と同じ意味として説明されていることからと「～に関して」との関連性がうかがえる。この時期の英和辞書は蘭和辞書の影響を受けたものが多いため、蘭和辞書における訳語も調べてみた。その結果、「about, concerning」に当る蘭語の「Aangaande」の訳語に「～に拘て」が当てられた例が見られる。

■ 『和蘭字彙』(1858) 桂川甫周

- Aangaande ニ拘テ,

この「～に係りて・拘りて」は辞書だけでなく文献においても複合辞として使われている。

- (38) 而て時の政事に係はりて論ずるが如きは本來吾社開會の主意に非ず(明六雑誌, 1875:30号:4)
- (39) 帝王の權能か之尤とも正しきやの問題に係はりては、基督の毫も教へざる所ろにして
(女学雑誌, 1894:45号)
- (40) 各種の昔ばなし其の部落の類別等に係りて頗る辯ずる所有りしが(太陽, 1895:2号)

また1870年代からは「～に關り」の複合辞用例も見られる²⁰⁾。

- (41) 我身の事に就き他人の事に關りて真実を守るべきのみならず(童蒙をしへ草, 二編4:82, 1872)
- (42) 第五十六条 選挙ニ關リ訴訟又ハ告訴告発アルトキハ第五十三条第五十五条ノ期限ヲ経過スルモ裁判確定ニ至ルマテ其ノ投票ヲ保存スヘシ(衆議院議員選挙法, 1889, 法律第37号)
- (43) 第七条 互選人選挙ニ關リ輕罪以上ノ罪ヲ犯シタルトキハ互選名簿ヨリ除名セラルヘシ
(1889, 貴族院多額納税者議員互選規則, 勅令第79号)

以上の考察からは次のような可能性が考えられる。オランダ語や英語の前置詞の訳語に当たられた「～に係りて・拘りて」の影響を受け、漢字表記を異にした「～に關り」が複合辞として使われるようになった。そのあと、漢語動詞の「～に関して」が複合辞として定着した可能性が考えられる。和語の「かかわり、かかわって」から漢語「関して」への変化過程に中国語の「關於」が影響をあたえた可能性も考えられる。この点に関しては中国語と日本語の対訳テキストなどを通して今後さらに考察していきたい。

5. おわりに

複合辞の発達は近・現代日本語の文法の一つの特徴的事実と考えられているが、その生成と定着に関する通時的な考察は今まで多くされていない。本稿は近代以降見られはじめる複合辞「～に関して」に注目し、文献における用例を調べ、その生成と定着過程について考察してみた。その結果、1869年の文献に初期の用例があらわれ、1880年代末には英語の前置詞の「about, concerning」の訳語に当たられるなど、現代のような複合辞としての用法が定着していることが分かった。一方その生成と由来について、中国語「關於」と蘭語と英語の前置詞の訳語の影響を考察してみたが、現時点ではひとつの仮説にすぎないと言えるだ

20) 「關り」を「あづかり」として読む場合もあるため、用例の考察には注意が要する。

ろう。ただ今回の考察が近代以降発達した日本語の複合辞の生成過程に中国語と英語が影響を与えた可能性について考えるきっかけになれると思われる。

今回の考察の結果、残された課題は多い。複合辞用例の意味用法について具体的に検討し、動詞から複合辞へと変化する過程をより精密に考察しなければならない。そのためには動詞「関する」や複合辞「～について」との使用状況を比較する必要がある。今後、より多様な資料を検討しながら複合辞「～に関して」の生成と定着過程を探っていきたい。

【参考文献】

- 太田辰夫(1958)『中國語歴史文法』江南書院版 影印本(1981), 朋友書店, p.254
王力著(1958)『漢語史稿』中冊, 科学出版社, p.391
朱京偉(2012)「太陽コーパスにおける漢文系複合辞の使われ方」『近代語コーパス報告書』国立国語研究所, pp.221-236
藤田保幸・山崎誠(2001)『現代語複合辞用例集』国立国語研究所, pp.1-2, 28-29, 106-107
松木正恵(1990)「複合辞の認定基準・尺度設定の試み」『早稲田大学日本語研究センター紀要』2, pp.27-52
_____ (2012)「複合辞研究史 X 複合辞認定に対する問題提起と研究の方向性」『早稲田大学教育・総合科学
学術院学術研究(人文科学・社会科学編)』第60号, pp.153-164
真仁田栄治(2005)「複合辞「～について」「～に関して」の使用の傾向：述定と裝定との関係を中心に」『同志社
大学留学生別科紀要』5, pp.61-71
森岡健二編著(1991)『近代語の成立 文體編』明治書院, pp.323-373

논문투고일 : 2013년 06월 10일
심사개시일 : 2013년 06월 20일
1차 수정일 : 2013년 07월 09일
2차 수정일 : 2013년 07월 16일
게재확정일 : 2013년 07월 21일

〈要旨〉

近代日本文献における複合辞「～に関して」に関して

複数の単語が結合し助詞や接続詞のように機能する複合辞は、近代以降顕著に発達しており、近現代日本語の文章の分析的特徴を表している。本稿ではこのような複合辞の中で「～に関して」に注目し、近代の雑誌と書籍、辞書などの文献の用例を通してその定着過程を考察してみた。

文献調査の結果、1895年に発行された雑誌『太陽』では複合辞の用例が多数現れ、すでに現在のような用法が定着していることが分かる。1870年代からは用例は多くないが、本動詞と共に複合辞として使われる例が見られはじめる。1880年以降は用例の増加と共に、『官報』と法令など公文書に使われることから複合辞の用法が定着していることがうかがえる。

一方、1880年代の英和辞書において「～に関して」が「about, concerning」のような前置詞の訳語として当てられていることから、その生成にオランダ語と英語の前置詞、また中国語の介詞「關於」が影響している可能性を考察してみた。

Regarding the compound particle ‘～に関して(ni kanshite)’ appeared in the modern Japanese literature

The compound particle has remarkably advanced since the modern era, and shows the analytic characteristic of contemporary Japanese sentences well. Among the newly appeared compound particles, ni kanshite was selected, and its settlement process was studied through the examples in the modern literature.

Examples of using ni kanshite appears in the 1870s. In the late 1880s, ni kanshite was used as a translated word for about and concerning in English-Japanese Dictionary, and the usage already settled down in the 1880s.

The origin of ni kanshite could be traced through Dutch-Japanese Dictionary, English-Japanese Dictionary, and English-Chinese Dictionary published in the modern times. It could have been made under the influences of ～に拘って(ni kakawatte), translated words of Dutch and English prepositions and 関於(kwan yu), Chinese prepositions.